

委員会宣言 ~~草案~~

私たち、JR東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部は、「ひたちなか市商工会議所」において第1回定期地方委員会を開催し、結成から1年間で切り拓いてきた地平を確認し、すべての闘いを組織強化・拡大に結合させ、すべての仲間が安心して働ける職場と「いのち」を最優先にした安全風土の確立を目指し闘い抜く方針を満場一致で確認した。

未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活に大きな変化をもたらし、2度目の「緊急事態宣言」が発令され、さらに期間が延長された。私たちはそのような状況下において、社会生活に欠かせないエッセンシャルワーカーとして「鉄道の安全」と「いのち」を守り抜いてきた。一方会社は、経営危機を訴えつつ「コストダウン」を社員に担わせようと躍起になっている。コロナ禍に乗じた施策の推進は、職場に混乱と不安をもたらしていると言わざるを得ない。私たちは、すべての仲間と取り組んだ「年末手当実現！ 一握りづくり運動」の教訓を活かして、職場で働くすべての仲間の声を要求へと高め、安心して働ける職場環境を実現していかなければならない。

「新たなジョブローテーション」は、面談内容と異なる本人希望無視の「強制配転」が行われ、乗務員から駅への強制転勤まで強行された。さらに、工務職場においても通勤困難な職場への強制転勤や明確な目的も無い出向が行われた。私たちはこれらの事態に対して、分会抗議集会や地本抗議集会を即座に開催し、決して諦めることなくあらゆる手段を講じて闘うことを意思統一し、乗務員職場共同代表による「生活設計を破壊する『乗務員から駅への強制転勤』を直ちに止め、早期元職場復帰を求める署名」を取り組んできた。さらに『「新たなジョブローテーション」の実施に関する実態調査アンケート』を取り組み、組合員のみならず多くの声を掴んできた。今後は、鉄道従事者の「専門性」とすべての仲間の「安心と安全」を守るため、制度化の実現を目指して闘いを積み上げていく。

3月ダイヤ改正では、水戸線において「中編成ワンマン運転」施策が実施されようとしている。職場から取り組んだ検証行動、有識者との意見交換では「安全性」「利便性」「公共性」が低下することが明らかとなった。私たちは団体交渉においてそれらを指摘したが、会社は「問題ない」と繰り返すばかりで、施策実施ありきの姿勢を貫いてきた。私たちは、そのような会社姿勢を糾すため、安全と人間労働を対置した検証運動のさらなる強化と、外部との連携を強化して鉄道利用者へも訴えかけていく。

一方で、「中編成ワンマン運転」施策に向けたハンドル訓練では、休憩や食事が全く摂れない訓練行路であったことから、緊急申し入れをおこない行路の即時見直しを求めてきた。しかし、会社は「食事を摂るなどは言っていない」と回答を曖昧にし、現場での対応も一貫性なく混乱したのである。そして極めつけは、この問題の解決のため管理者と話し合った組合員に対し、会社は不当な処分と配置転換を行ったのである。この「管理者の言動により乗務不安を訴えた運転士に対し、処分を下した事象」は、もの言う労働者の排除と活動の萎縮を目論んだものであり断じて認めるわけにはいかない。地本は、組織の総力を挙げて、当該組合員の処分撤回と元職場復帰に向けて闘い抜く決意である。

さらに会社は、「JR八王子駅パンフ配布処分事件」に見られるように、今もなお労働組合敵視の姿勢を貫いている。人事権を活用した差別人事、就業規則を盾にした職場における管理体制の強化、会議室の使用規制や掲示板未設置問題など、意図的に対立関係をつくり組合員の分断と職場活動の萎縮を狙っている。私たちは、憲法28条で保障されている団結権を堂々と掲げ、当たり前の職場活動を守るためあらゆる手段を活用して闘い抜いていく。

JTSU春闘は、コロナ禍で一変した生活と働き方、増大している負担と格差、この間のエッセンシャルワーカーとしての労働の価値を踏まえ、全組合員の基本給一律3,000円（定期昇給を含まない）を掲げスタートをきった。私たちは労働者としてコロナ後の未来を展望し、社会の風潮に臆することなく、この間のたたかいを教訓にすべての仲間の労働者意識を高めることを通じて、要求実現に向けて堂々と職場から闘いをつくり出していく。

結成から1年。様々な苦闘を乗り越え「すべては仲間のために」を基本に、職場から「今できること」を実践してきた。この間の職場からの闘いによって、私たちの運動への「共感」を着実に高めてきている。そのことに自信と確信を持ってさらなる闘いを展望しよう。そして「すべての仲間」にJTSU-Eへの結集を呼びかけ、組織強化・拡大を実現するために奮闘していこうではないか！

以上、宣言する。

2021年 2月20日
JR東日本輸送サービス労働組合
水戸地方本部第1回定期地方委員会